

平成30年度 第3回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日時】 平成30年12月18日(火) 13時00分～15時50分
- 【場所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室
- 【出席委員】 全委員15名中 出席委員10名
- 【執行部等】 市長 副市長 教育長 会計管理者 総務部長 市民福祉部長 環境水道部長
商工観光部長 基盤整備部長 消防長 病院管理室長 宮川振興事務所長
神岡振興事務所長 農業委員会事務局長 林業振興課長 建設課長 建設課係長
(17名)
- 【事務局】 理事兼企画部長 総合政策課長 総合政策課係長、政策企画係主事(4名)
- 【傍聴者】 3名
- 【会次第】 1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 協議事項
① 平成31年度重点政策について …… 別紙①
② 平成31年度主要事業の概要(案)について …… 別紙②
③ 地域再生計画の中間評価について …… 別紙③
5. その他
6. 閉会

【議事内容】

1. 開会

司会【理事兼企画部長】

今年度第3回目の総合政策審議会を開会する。

飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により、定足数に達しており審議会成立。

2. 市長挨拶【市長】

今年度第3回目の総合政策審議会。これまでも熱心にご議論をいただいている。前回大きな方向性と柱立てをお話させていただき政策分野でのアイデアを賜った。平行して、来年度の重点政策や政策の柱立て、個別の事業について検討進めてきたところ。今日はその内容を説明させていただき、ご意見を賜りたい。

明日から次年度予算の市長査定に入る。通常はどの自治体も、財政課と担当課が協議を重ね、副市長との議論を終えて、市長査定が始まるのがパターン。飛騨市は全くやり方を変えており、査定の前に何をやるのかという議論を10月から相当重ねてきた。そして、事業の中身を詰めて議論した上で、これから予算の枠の中にはめる。議論してもお金が無ければできないものが出てくるのは当然であり、

全体の予算の中で優先順位を決めていく作業をおこなう。政策については、今年も60から70時間市長と協議を実施しており、かなり精魂込めてやっている。今回、その最終段階のものをご審議いただくが、このタイミングであるから、まだ十分に予算に反映できる大事な会議である。その意味では、平成31年度の予算重点政策の最後の段階のご審議という中でご意見を賜りたい。

では、後ほど協議事項に入るが、大きな方針だけ私から説明させていただく。

私の就任当初より「元気で、あんきな、誇りの持てるふるさと飛騨市」という政策の方針として、選挙時からブレず取り組んできた。市政は360度あらゆる分野があり、バランスよくやるという意味合いもある。「元気」は、人口減少を止めようとするのではなく、地域外から所得を稼ぎ、人口減少を前提にしながらどう活力を生み出すかという分野。「あんき」では、自治体の本務であり、最優先事項という考えの中で、安全・安心を守る取り組み。特に医療、介護、障がい者支援、低所得者対策など弱い立場の人の支援をやっていく。「誇り」では少し私の特色が出ているところだが、飛騨市の地域資源を掘り起こして市民の自信につなげていき、そして若者の定着、UIターンにつなげていくということをやってきた。

平成28年度は、市民の意見を聞かせていただきたいということで、広く意見交換会を実施し、特に観光分野において様々な取り組みを実施した。あんきの分野では介護人材の確保、誇りの分野ではまちづくり、ふるさと教育に力を入れてきた。

平成29年度は、具体的に更に広げていくということで、カミオカラボの設置、まつり会館の改修、ロケツーリズムといった取り組みを進めるほか、福祉の分野では、こどものこころクリニックの開設、介護人材確保の全面支援、あるいは、危機管理体制や障がい児者支援といった分野についても組織を含め整えなおしたというところ。地域資源の分野でも山城の研究などに新たに着手してきた。

平成30年度は、そうしたところを更に磨き上げながら、未着手の分野に手を付けていくという考えの中、健康づくりや、ひとり親家庭を中心とした暮らしに困難を抱える方々への支援、防災・防犯、医療職・製造業・農林畜産業の人材確保・育成、文学・芸術の掘り起こしということをやってきた。

当然、こうしたものはほぼ継続していくが、今日ご議論いただく平成31年度は、今一度、「身近な暮らしの充実」という観点で、市民の皆さんが普段の生活の中で気にしておられる点、求めておられる点に立ち返り、もう一度追求するというテーマに議論してきた。あわせて、これまでの取り組みについても強化し進めていく。

そうした中で、「スポーツの振興」を来年度はしっかり取り組んでいきたいと考えている。環境面では「ごみの減量化」ということで、普段の生活のごみの減量化に正面から取り組んでいきたい。三つ目は、高齢者ご自身が亡くなられた後が心配という声を最近よく聞く。特に一人暮らしの高齢者の方々に外にいるご子息ご親戚が大変心配をされ、ご本人も亡き後の心配が非常にあるということで、そうしたことを全面的に支えていく仕組みがなく、そこを行政として取り組んでいく。いわゆる「終活支援」。四番目の教育では、今年度より保小中の連携教育を始めているが、更に高等学校まで広げ、どういった教育ができるのかを追求したいという考えから、全ての園、学校を一つの「飛騨市学園」とみなし、人材育成を考えていこうということで取り組んでいきたい。教育の世界は大きく変わってきており、知識を学ぶ教育から、課題を発見し考え解決する能力をいかに身に着けるかという方向に大きくシフトしている。保育園から高等学校それぞれで出来ることは何かということを一トータルで考え

ていきたい。五番目だが、子育て支援の部分で様々な政策を展開しているが、特に「産前産後」の部分に力を入れたい。不安のない安心して子どもを産み育てられる環境を作っていくということに取り組んでいきたいということで、今回の柱を掲げさせていただいている。

いずれにしても、「身近な暮らしの充実」をテーマにし来年度取り組んでいくということ。これまでも相当数の事業を実施しているが、それに加えながら全体のバランスの中で仕事をこなしていけるのかということもこの秋に議論してきた。職員のマンパワーや予算の兼ね合いも考えながら、絞り込み重点政策とした。

3. 会長挨拶【会長】

あっという間の1年であった。清水寺の恒例の今年の一年の漢字は「災」が選ばれたが、まさに、地震、豪雨災害など日本全体が災害に見舞われた。飛騨市も人的な被災はなかったが、大変な災害に見舞われ皆様ご苦労されたと思っている。暗い話ばかりではなく、根尾選手が中日ドラゴンズへの入団が決まるという明るい話もあった。今年も三回目の審議会であるが、平成31年度予算の非常に大切な審議になる。日頃現場で感じておられることを、ここでご意見としてあげていただきたい。

4. 協議事項

司会【会長】

① 平成31年度重点政策について《別紙①》

② 平成31年度主要事業の概要（案）について《別紙②》

【市側より説明】

【会長】説明いただいた内容について、ご質問などあれば賜りたい。

【委員】「元気」のところで2点。Wi-Fiの拡張エリアについて、先日エリアを見せていただいたが、重点的にやっていただきたいエリアがある。大横丁通りが弱いと感じている。JA古川支店などのあたりにつけてもらえると、駅からつながるのでは。二つ目は寄り添い型の支援についてだが、よろず支援をバージョンアップして寄り添い型支援にするのか。また、今年度のよろず支援の実績をお伺いしたい。

【市側】Wi-Fiエリアの拡張についてだが、観光客の動線を調査した中で、次年度は大横丁通りも含め整備したいと考えている。点ではなく線としてつながるよう整備していきたい。飛騨市ビジネスサポートセンターについては、現在のよろず支援の週1回を継続し、プラスアルファとして別の先生にも加わっていただき支援していきたいと考えている。支援の回数が増えることに加え、これまで月1回であった神岡町でも複数回開催できるような体制を整えていきたいと考えている。今年度のよろず支援の実績は後程回答させていただく。

【委員】もう1点、併用住宅の空き店舗賃借料支援の拡大についてだが、作業場との併用住宅でも問題ないのか。

【市側】店舗だけでも支援はあるが、店舗併用の部分は補助率が低かったことがあり、その部分を引き上げたもの。作業場との併用でも問題ない。

- 【委員】池ヶ原湿原のPRについて、大変多くの方に利用していただいているが、気になる点がある。管理人が帰ったあとの管理ということについてだが、1点目は、以前、観光客が買い物袋にミズバショウを入れていたのを見たことがある。2点目は、朝早くにご高齢の方が川にオキアミを流してみえた。気持ちはわかるが自然ではない。これらは、管理人がいないときに行われていた。難しいとは思いますがどのようにお考えか。
- 【市側】市では3年かけて木道を整備した。駐車場から近いため、障がいをお持ちの方でも気軽に行ける場所として整備している。木道が今年度完成するため、次年度は歩き方のマップや看板を設置することを検討している。委員が言われるように生態系の保全は重要だと考えるが、24時間管理人がいることは難しいため、看板などで啓発することを次年度考えたい。
- 【委員】スポーツ推進体制の強化とあるが、それぞれの地区の体育協会を一つにするということか。
- 【市側】一つにするのではなく、これまで体育協会の事務を市の職員がサポートしていたが、今後強化していくためには、経験の豊富な方に入っていただき専門的にやっていただくのが一番であるという考えの中で検討したいというもの。
- 【委員】例えばグラウンドにしてもそうだが、それぞれの団体としてやっている。飛騨市として一つになってやればもっと充実した大会等を開催できると思う。今後考えていただきたい。
- 【市側】施設の管理者が違うということが問題かもしれない。それぞれに指定管理者の公募をかけており、それぞれのバックグラウンドがあって一つにしきれない。逆にそれを前提として連携体制をどう作るかということであり、大事なご指摘かと思うが、そういったスポーツ施設を管理する人の連絡協議会のようなものを作って情報共有を図ることが非常に大事ではないかと伺っていて思ったところ。早速検討させていただく。
- 【委員】例えば市にスポーツ課は出来ないか。
- 【市側】スポーツ担当の専門課を作りたいということで組織の検討をしている。独立させたいと考えているが、全てを一元的に管理するのは難しいと思うが、専任の方を雇い、その分の職員を動きやすくするなど組織の工夫は大いにしたいと考えている。
- 【委員】ごみの減量化は良いことだと思う。一般家庭から出るものと、企業から出る産業廃棄物があると思われるが、先般、事業所からの蛍光灯については産業廃棄物として各事業所で処理するよう通知がきたが、そういうものは市内企業もそれほど多くないことから、従来通り収集していただくとありがたいと思う。
- 【市側】企業から出る水銀系のは、産廃として企業から直接専門業者に処分をお願いしていただくよう案内している。小さな蛍光灯は今まで通り家庭と一緒に扱いとしている。
- 【委員】家庭で使っている蛍光灯は4月以降でも収集してもらえということか。
- 【市側】事業所として排出されるものは事業の責任の中で産業廃棄物としてお願いしたい。
- 【委員】事業所と個人とのすみ分けはどうか。
- 【市側】普段の家庭ごみと同じものは家庭ごみとして出していただける。

- 【委員】ということは、蛍光灯も家庭ごみでよいのか。
- 【市側】もう一度通知文を確認し、後程回答する。
- 【委員】衣類について、スキーウェアのようなものは廃品回収では扱えないということがあるが、市が実施する回収は問題なくおこなってもらえるか。先般設置されたゴミステーションを見てきたが、スーツのようなものも置いてもいいのか。置き方についても地域によって違うようであり、衣類の出し方がわかりづらい。地域でごみの出し方の講習会などで徹底してもらえるとわかりやすくなると思う。
- 【市側】24時間回収ボックスで衣類を回収できるようにしたところだが、スキーウェア等も問題ない。ごみ分別の講習会については、毎年3地区ほどの依頼がある地区には講習会を実施しているが、全ての地区では実施していない。出し方としては、洗ったものを畳んでボックスに入れていただければよい。
- 【市側】今後は市役所でも受け付けをしたいと考えている。今は衣類を出すところがなく全て焼却していることから、リサイクルを進めたいと考えている。
- 【委員】各家庭にごみの分別等を書いた冊子が配布されるが、そういった周知をしっかりといただければ。介護施設等では、Tシャツなど綿の生地のを切って再利用しているが、再利用したあとにごみとして捨てるリサイクルにならないということで、病院や介護施設ではどうしたらよいのかと思った。
- 【市側】ボロ切れとして使って捨てることはいいと思うが、スーツやスキーウェアなど捨てるだけのものについてはリサイクルを推進したい。
- 【委員】もう2点。免許自主返納者への支援についてだが、通院支援タクシーの助成とはどう違うのか。
- 【市側】免許自主返納者への支援については、車の利用状況について聞き取りをした結果、男性は買い物や趣味に使っており、返納したくないという意見が多く、女性は買い物など生活に直結しているという中で、やはり足の代替えを希望される方が多かったことから買い物などの時にタクシーやバスとしていつでも使ってもらえるものとしている。一方の通院タクシーについては、古川循環タクシーの代替えである。一便当たりの利用者数が一人にも達しておらず、様々な検討をしている中で、利用された方の意見を聞くとほぼ通院に使っているという状況がわかった。古川循環タクシーと通院に特化したタクシー支援とで財政負担や市民の利便性を比較検討した。その中でも、通院される方は診療予約をされることなどもあり、行く時は時間が決まっていることからご家族の送迎やバスなど何らかの方法があるが、帰りについては時間が決まっていないため、家族の送迎やバス利用が難しくタクシーを利用される方が多いということがわかったことから、通院時のタクシー支援を検討したもの。
- 【市側】補足するが、古川循環タクシーは乗車状況からも止めたいと考えているが、国の計画に沿っていることから単純に止められない。こういったことから、まずは実験としてタクシーで移動手段を確保し対応してみたいと考えており、喜んでいただければ制度化したい。

- 【委員】除雪の対策として、高齢者世帯や独居の方々が除雪できず孤立してしまう状況がある。デイサービスの職員がどうしようもないところはスコップを持って除雪をしている場合もあり困っている家庭がある。社会福祉協議会にも問い合わせが増えていると聞いた。雪下ろしサポートセンターもあるが、建設業でも対応しきれないことがあると聞いている。シルバー人材の方も雪下ろしなどは危険性が高いことから対応できないと聞いている。
- 【市側】除雪というのは人がやらないとできないことであり、一時に急に必要になるという特徴がある。道路の除雪は雪が降ると建設業が手一杯になり、全体の除雪のマンパワーが限られるため、優先度が高い路線からやっけていかざるを得ない状況になる。そうなると限られたマンパワーを割り振るとどうしても手が回らなくなる。建設業そのものも対策を講じていかなければならない状況であり、より拡大することが難しい状況。予算をつければなんとかなるものでもなく、これといった解が無い。助け合いをお願いするしかない。
- 【委員】全て市にということは思っていないが、何かよいアイデアがあればと思っている。
- 【市側】地域によっては、除雪機を貸与しても雪の排出先がないという実情がある。手押しロータリーを貸し出す制度はあるが、定期的にやっていただけるところは少ない。バス停や中学校の横断歩道にはスコップを常設して、共助での除雪をお願いしているところ。
- 【委員】うちの区でも空き屋があり、道路の除雪がゆきとどかないところがある。地域で声を掛け合い除雪をしているが、怖いのはそこで怪我があったとき誰が責任を取るのかということと、お願いしづらいところがある。
- 【委員】危機管理型水位計の運用についてだが、市のホームページで水位計の状況を確認できるのか。次に、民間宅地分譲整備の支援については、区画の平米数の制限はあるのか。三つ目に、ICT 機器を活用した教育の推進について、デジタル機材というのはタブレットを使って授業をするのか。また、小学生全員に配布するのか。
- 【市側】ICT 活用は、固定式パソコンを順次タブレットに入れ替えていくもの。一人一台は難しいため、現在あるパソコンの台数を維持しタブレットに切り替える。その他にも、固定式電子黒板やデジタル教材といった電子教材、各教室への無線 LAN の整備を検討しているが、これらの整備には大きな予算を伴うため現在調整をしているところ。
- 【委員】いずれは、一人一台にしていけないといけないと思う。
- 【市側】今年度は、河合小学校、宮川小学校、神岡小学校、神岡中学校、山之村小中学校を入れ替えた。実際にタブレットを活用し授業を行っている。一人一台使う場面もあれば、グループで話し合ったり意見をまとめる際にはグループで一台であったりと、その場面によって変えているが、学級間で工夫して活用している。
- 【委員】これによる先生方の負担は今よりも増えるのか、減るのか。
- 【市側】最初の導入時は負担が増えるだろうと思われる。ただし、デジタル教材は既に出ており、今まで手作りしていたものを作る必要が無くなるなど、負担が軽減されると考えている。

【委員】個性がなくなるということか。

【市側】得意な先生は自分で工夫して活用できると思う。

【市側】水位計だが、インターネットで「川の防災情報」と検索いただければ、ここで県が設置した水位計は全て見ることができ、自分に近いところを見て判断の材料として活用をしていただける。今後、危機管理課から情報等は発信すると思う。次に、民間宅地分譲整備について、要件については現在整理中だが、面積要件はなく、3軒以上で考えている。私道と市道などで要件は変わるが、水道下水の支援がなかった部分は支援をしたいと考えている。

【会長】危機管理型水位計は、実際に防災訓練時に活用してほしい。

【委員】飛騨市の子育てガイドブックの作成についてだが、新規として記載してあるが、今までも発行していると思うがどうか。

【市側】今までは市が独自で作っていたが、民間事業者と共同でカラーで見やすい冊子を作成したいと考えている。内容も充実させていきたい。

【委員】今までの子育てガイドブックは、色んな情報が盛り込んでありよいと思う反面、マンネリ化していると思っている。おそらく新しい部分が盛り込んであると思うが、どこが新しくなったのかわからない。民間を使うとそれなりに予算がアップすると思うので、それに見合ったものを作ってほしい。

【市側】民間事業者が作っていただけるということで、市の予算はかからない予定である。委員おっしゃられるとおり、新しく始まった事業などがわかりやすく掲載できるよう検討したい。

【市側】委員からご質問のあったよろず支援拠点の実績について報告する。平成30年度は11月末現在で62件の相談があった。

③ 地域再生計画の中間評価について《別紙③》

【市側より説明】

質問なし

【会長】

ここで、10分休憩を取る。

— 休憩 —

【会長】会議を再開する。先ほどの質問について事務局より回答をいただく。

【市側】委員よりご質問いただいたごみの処分にかかる文書について報告する。廃棄物処理法に関する政令が発令され、新たに事業者から出るものは産業廃棄物に位置づけられたと文書で発出したが、量が出る事業者と少量の事業者との区分がなされていないことから、改めて検討し、もう一度通知文書を出させていただきたい。

【会長】ここからは、委員の皆様から平成31年度に市が取り組んでほしいことなどについて、お

一人3分ほどご意見をいただきたい。

- 【委員 A】平成31年度の重点政策を見せていただくと素晴らしいと思う。特にあんきの子育て・福祉の面が充実されており、必ず人口増につながると思う。慌てずゆっくりやって成果を見守っていただきたい。一方で、交流人口を考えると、体験型かと思う。一過性ではない事業があれば観光客が集まってくると考える。これが今、市長がやっている地域資源の掘り起こしかもしれないし、グラウンドなどを使ったスポーツも体験型につながると思う。昔、高校生で飛騨にスポーツの大会に来た人が、指導者となり選手を飛騨市に連れてきている。理由の一つはご飯が美味しいと言われる。米、野菜、飛騨牛などいいものが多い。人の真似よりも、飛騨市がパイオニアとして一つでも二つでも取り組んでいてもらいたい。
- 【委員 B】医療職・介護職の人材確保について様々な施策を講じていただいているが、今後も引き続きお願いしたい。予防接種については、風しん対策として厚生労働省では来年度、抗体検査の無料化を検討されているようだが、飛騨市では既に先行して取り組んでいただいております。予防接種全般について、今後も充実と継続をお願いしたい。災害時の医療体制の確保については、通常の医療体制を継続することが、重要であると考えており、長期停電時には発電機が必要かと思う。電力会社でも対策を講じられているが、発電機の設置等について支援を検討いただきたい。飛騨市職員の労働衛生の面もよろしくお願ひしたい。既に検討されているが、高齢者の車の免許返納に関する事業もあらためてお願いしたい。
- 【委員 C】介護福祉の分野では、手厚い事業を実施していただいております。終活支援については、これまで一括して相談できる体制が無かった部分への支援ということで、この町であんきにしまっていけるよう私たちも一緒に貢献していけたらと思う。身近な暮らしの充実に力を入れるということで、小さな困りごとに目を向けていただきたい。市政ゼミナールや市長ふれあいトークで、様々な分野のお話を聞く機会があつてよい取り組みだと思うが、もう少し人が集まるような工夫があるといいと思う。先日の農業関係のゼミナールでは、もう少し人が来てもいいのにとすることがあった。やっている人がお互いに認め合える場所にもなると思うので、場所についても参加しやすいような工夫をしていただけるとよい。
- 【委員 D】二人子どもがいて妊娠出産を経験し、市からサポートをいただきありがたかった。保育園が2クラスから1クラスになり子供が減ったと感じている。不妊治療の支援について、引き続き支援いただきたい。宮城保育園についてだが、保護者用の駐車場から園の入り口まで道路を歩く必要があるが、外灯が少ないため、夕方は真っ暗になり危険である。外灯をつけていただけたらと思う。
- 【委員 E】災害は、地震だけでなく、水害、台風、火山噴火、猛暑など広範囲な対策を考えなければならないと思うが、飛騨市にあった財政の中で地道に対策を進めていただければと思う。来年度の防災に関しては災害対策強化が検討されており期待したい。そこで、飛騨市が毎年行っている防災訓練についてだが、訓練の内容は、細かく具体的に想定をされ

た上で実施をされていると思う。防災訓練の大枠を崩さない中で一部をブラインド化したらどうか。訓練に対して正解はないが、混乱をさせない範囲の中で、臨機応変な対応に向けての訓練を取り入れられたらどうか。

【委員 F】産前産後から終活まで計画されており、素晴らしいと思う。上手く進むよう取組みをお願いしたい。

【委員 G】台風 21 号で大変な被害があったが、国・県・市により支援をいただいた。米・食味分析鑑定コンクールや楽天本社での PR 活動について支援をいただいた。新しいことをたくさんやってきて、やればやるほど自分の負担が増えていくと感じているが、出来る限りのことはしたい。しかし、地域の営農組合も疲弊し、かかる経費は増加する一方である。来年 10 月に消費税があがり、農林水産省の予算が確保されたと聞いているが、可能な限り国の情報を入手していただき、国の補助等の支援を獲得していただきたい。また、市の職員には、出来る限り農家に足を運んでいただけるようお願いしたい。

【委員 H】終活支援センターは重要であると思う。しっかり進めていただきたい。産前産後ママサポプロジェクトについては、自分も産後うつになりかけたこともあり、非常に大事だと思う。その中で家事支援事業があるが、行き過ぎた支援にならないよう進めていただきたい。

【委員 I】新しい事業で、創業支援融資の利子補給とさるぼぼコインの国民健康保険料や水道料金の納付に活用されるという事業があり、ありがたく思っている。飛騨市推奨特産品についてだが、応募される件数が減っていると感じる。例えば、飛騨市のホームページから推奨品が購入できるなど考えていただきたい。サラリーマンへの支援について、高山市では車購入やリフォーム、冠婚葬祭、教育について、1.8%の利子補給で上限 200 万円で 6 年以内という事業を実施されている。そこで、飛騨市でも飛騨市ファンクラブ会員や飛騨市に勤務されている方が金融機関でマイカーローンを組む場合に、高山市並みの一定の支援を検討されてはどうか。

【市 側】様々なご意見を賜りお礼申し上げる。個別にコメントさせていただく。

委員 A がおっしゃられた、体験型のプログラムの魅力が交流人口の拡大につながるという点はまさしく同感で、私も力を入れているところ。レールマウンテンバイクや薬草のまちなか体験などもそうだが、ひとつひとつ自分で体験してみると旅の印象が全く変わる。「君の名は。」関連での伊賀の組紐体験についてもまさしくそういった狙い。スポーツ合宿のご飯が美味しいと言われるということは、他のチームからも同じように聞いており、ご飯が美味しいことがこれだけ魅力になるのかと感じた。追求してみたいと思う。

委員 B の予防接種のお話は、引き続きご提言をいただき、取り組んでいきたい。発電機の件についても、この秋の議論の中でも医療機関あるいは介護施設等における停電対策について検討したところ。もう少し研究が必要と感じており、どういった物を設置し、その費用、支援方法などを含め、支援制度についてよく考えていきたい。市職員の労働衛生については、今の体制は市全体で 5 人欠員が出ている。今年は災害対策という要因

もあるが、年度途中の退職者など穴埋めができない。なおかつ、新規採用の内定に対し辞退される方もいる。基準の体制を整えたうえで、急な退職や産休に対応できるようにしなければならないと考えている。引き続き十分配慮していきたい。

委員Cからは終活支援について、あんきにしまっていけるまちづくりという非常にいいキーワードをいただいた。もっと充実できることがあると思う。引き続き充実を図っていきたい。市長ふれあいトークや市政ゼミナールは、固定化していることは事実。今年はトライアンドエラーで色々な工夫をしながら引き続きやっていきたい。

委員Dからは不妊治療の継続のお話をいただいた。今年度に回数制限を無くし拡充を図ったところであり、引き続き皆さんの声をお聞きしながら充実を図ってまいりたい。今もう一つ力を入れているのは、日本では生まない性教育ではなく生む性教育が進んでいないという課題意識を私自身持っている。妊孕性の低下など、特に新社会人や高校生に、子どもを作るということに対する年齢的な変化を理解してもらうことを社会人になったタイミングでやっていくことを強化したいと考えている。この分野は知識の啓発について取り組んでいるが更に充実を図りたい。宮城保育園の外灯の件は早速調べる。

委員Eからの防災訓練のブラインド化は、対策本部設置の部分についてのブラインド訓練を今年度実施したところ。これをもっと各地区に広げて行きたいと考えている。今進めている歩みを着実に進めていきたい。今年、避難所運営ゲームを市でも実施した。予期せぬ様々な条件に避難所運営側がどう対応するかというもので、これを地区レベルに広げ、そういった部分を防災士がリードするというモデルにしたいと考えており、防災士の育成も進めているところ。

委員Fから、終活についてお話をいただいた。おそらく、この部分を取り上げる自治体はないのではと思う。特に遠方にご子息などがおられて、こちらにお住いの高齢者が亡くなられた場合の家の片づけや財産処分などに非常に苦労されている。そういった声を聞く中で始める事業であり、まずやってみて改良を加えていきたい。この件はかなり議論しており、墓終いの支援や納骨堂の設置など色々な意見があった。徐々に検討していきたい。

委員Gからの意見に対しては、国庫補助金など取れるものは取っていきたいと考えている。職員については、農家に出向かせているつもりだが、まだまだ不十分な部分があると思う。農業担当の職員は長く配属してほしいといった要望も聞いており、ベテラン職員の配置などで出来るだけ気楽に話していただけるような関係を作っていけたらと思う。引き続き努力をしていきたい。

委員Hからはママサポの家事支援へのご指摘をいただいた。必ずしも手厚く支援するというものではなく、実際に保健師が家庭訪問したところ、家の中が何ともならない状態になっていたというケースも中にはあると聞いている。そういった部分をイメージしながらの支援であるが、ご指摘の点も配慮しながら進めていきたい。

委員Iからのご指摘があった推奨特産品については、確かに件数は減っているが、飛騨市の場合ももとの事業者数が少ないことから、新商品の開発が無い限り減っていく

ことはある程度想定していた。県の特産品でも同じ傾向である。ここは、平行して商品のブラッシュアップにシフトしなければいけないという思いがあり、まさしく今年度進めている。秋から商品のブラッシュアップ支援に取り組んでおり、来年度は首都圏等での販路拡大や飛騨市フェアなどについて拡大していく予定。引き続き支援していきたい。サラリーマンの利子補給については、高山市の状況を調査してみる。個人への利子補給は難しい面があるが、いずれにしても色んな切り口での議論が必要であり、他の自治体の例も見ながらよく勉強して今後の政策につなげたい。

皆様には、熱心に、しかもそれぞれの分野を超えて、示唆に富み直接政策に直結するご意見を多くいただき感謝申し上げます。今後、意見の中で盛り込めるものは早速盛り込んでいきたい。

【会長】 皆様それぞれの現場での貴重なご意見をいただいた。すぐ出来るものや来年度に向けてやっていくものはどんどん取り組んでいただきたい。

5. その他

【市側】 本日の資料については、現在協議中であり、本日皆様から頂いたご意見を含め、予算全体のバランスの中でこれから議論をしていくものである。その後、平成31年3月の議会の承認を受けた後、皆様には予算資料を配布させていただく。今年度は今回が最後であるが、来年度もあらためてご協力をお願いしたい。

6. 閉会【副市長】

本日は、委員の皆様にお忙しい中ご出席いただき、またそれぞれのお立場からのご意見をいただき感謝申し上げます。今後、予算査定を進めていく中で、熟度を上げる作業も平行しておこなう必要があると認識しており、新年度予算が実り多いものになるよう努力してまいります。今後ご指導賜りますことをお願い申し上げ閉会のあいさつとする。